

わたしの青い鳥

駅 にまつわる思い出を二つ。
冬の木枯らしが吹く駅のバス停で、震えながらバスの到着を待っていた時のこと。私の前に並んでいた年長さんと年少さんと思いき二人姉妹とお母さんの会話が聞こえてきた。

「ママ、おなかすいた～」

「今日は、お昼食べた後におやつビスケットがなかったのよね」

「だから、おなかすいちゃった」

「ごめんね。今日はコンビニに寄らないで急いでお迎えに行ったから、おやつは買えなかったの」

「おにぎりが食べたいな。ママの手からおにぎりが出てくるといいのにな」

「ママは魔法が使えないので出せません。家に帰ったらすぐご飯をつくるから。もう少し我慢してね」

それから二人は、バスが来るまで静かに待っていた。子どもの夢のある発想と、それを受けとめて返事をしたお母さん。家族で夕食を食べる姿を思い浮かべ、心がほっこり温かくなった。

もう一つは、駅で始発を待つ数分間のこと。3両目の一番左側のドア前に並んでいた私は、毎朝同じ人と会うようになった。「おはようございます」と挨拶を交わしてから、名前も知らぬ女性との会話を楽しむようになった。私が病気で数ヶ月会えなかったときは、とても心配してくださり、なんとお嬢さんも同じ病気をしたが、今は元気に過ごしているからあなたも大丈夫よ、と励ましてくれた。

ご主人を十数年前に亡くし、一人暮らしをしていること。お墓は近い方がよいと、駅前の納骨タワーに収めたこ

と。お正月には娘一家が、おばあちゃんの煮物が食べたいと訪れること……など、様々な家庭情報を教えてくれた。私も同じく娘や犬のこと、リタイアした主人の愚痴などを話した。

この朝の会話がルーティーンとなって6年あまり。

「1月で仕事をやめることにしたの。毎朝4時起きだったから、これからはゆっくり朝寝坊できるわ」と別れを告げられた。感謝の気持ちを伝えるために、1月最後の日にプレゼントを用意して行ったが、会えなかった。それ以来、残念ながら会えずにいる。せめて名前をお聞きして、LINEでも交換してあげば。お元気にお過ごしだろうか。

見知らぬ人との出会いが、心をあたため、一日を楽しいものにしてくれた。まるで、私の大好きだったメーテルリンクの「青い鳥」のようだ。

なんだ、あれが僕たちの探している青い鳥なんだ。僕たちはずいぶん遠くまで探しに行ったけど、本当はいつもここにいたんだ。

チルチル、ミチルの兄妹が幸せの青い鳥を探しにいった童話で、「幸せはどこか遠くにあるのではなく、自分の身近にある」ということに気づくというもの。まさに、駅での二つの出会いは、私にささやかな幸せをもたらしてくれた。

